

IV 調査結果の詳細

IV 調査結果の詳細

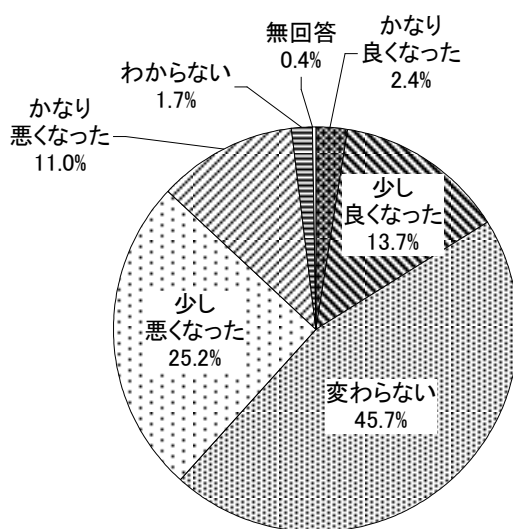
1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

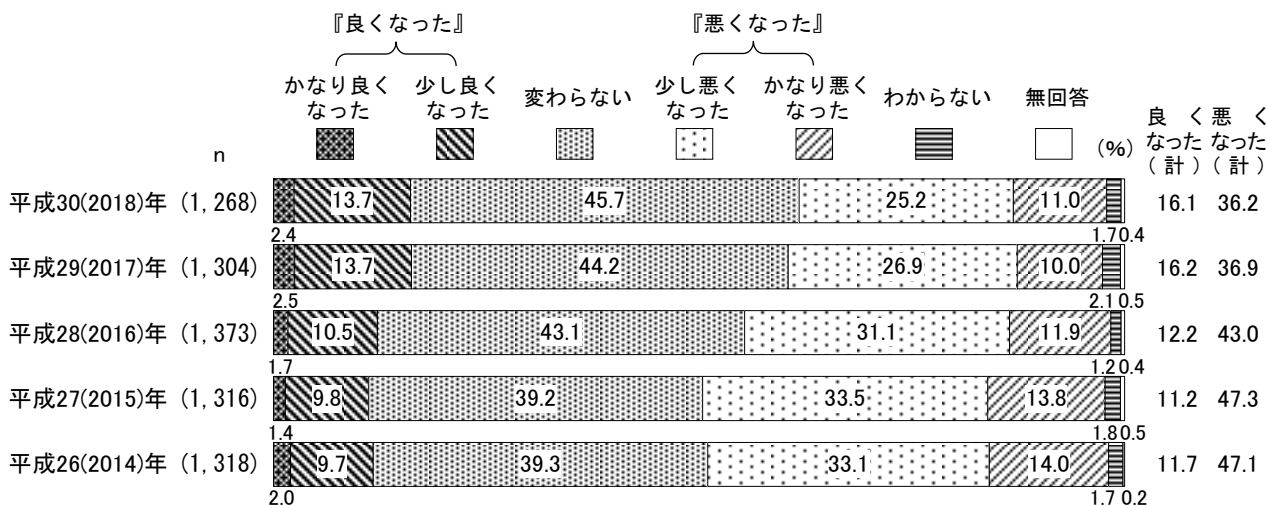
[n=1,268]

1	かなり良くなった	2.4%	4	少し悪くなった	25.2%
2	少し良くなった	13.7%	5	かなり悪くなった	11.0%
3	変わらない	45.7%	6	わからない	1.7%
				(無回答)	0.4%



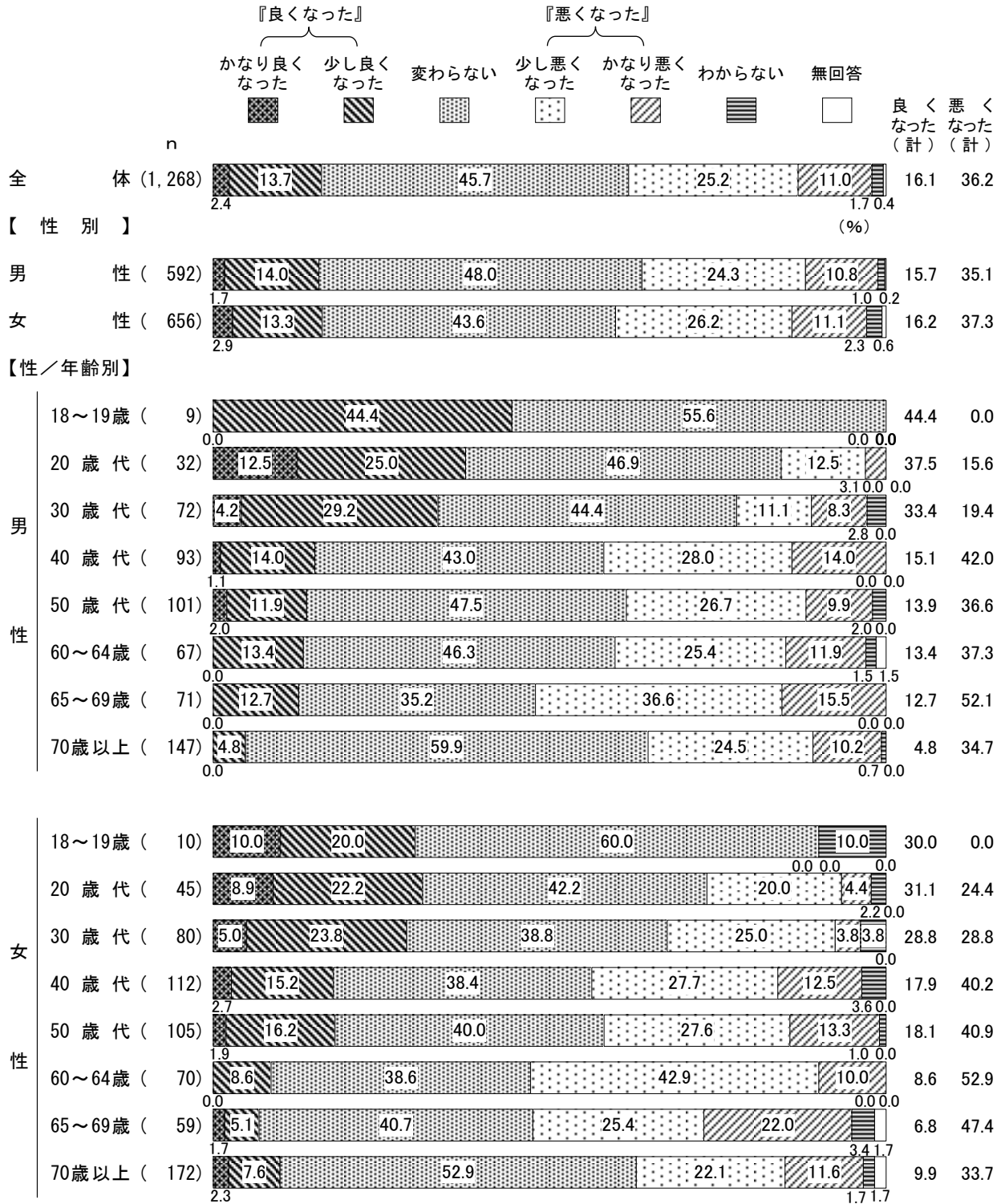
(n=1,268)

全体でみると、「かなり良くなった」(2.4%)と「少し良くなった」(13.7%)の2つを合わせた『良くなった』(16.1%)は1割半ばとなっている。一方、「少し悪くなった」(25.2%)と「かなり悪くなった」(11.0%)の2つを合わせた『悪くなった』(36.2%)は3割半ばとなっている。また、「変わらない」(45.7%)は4割半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、平成29(2017)年とほぼ同じ傾向になっているが、平成28(2016)年と比較すると、『良くなった』が3.9ポイント増加し、『悪くなった』が6.8ポイント減少している。

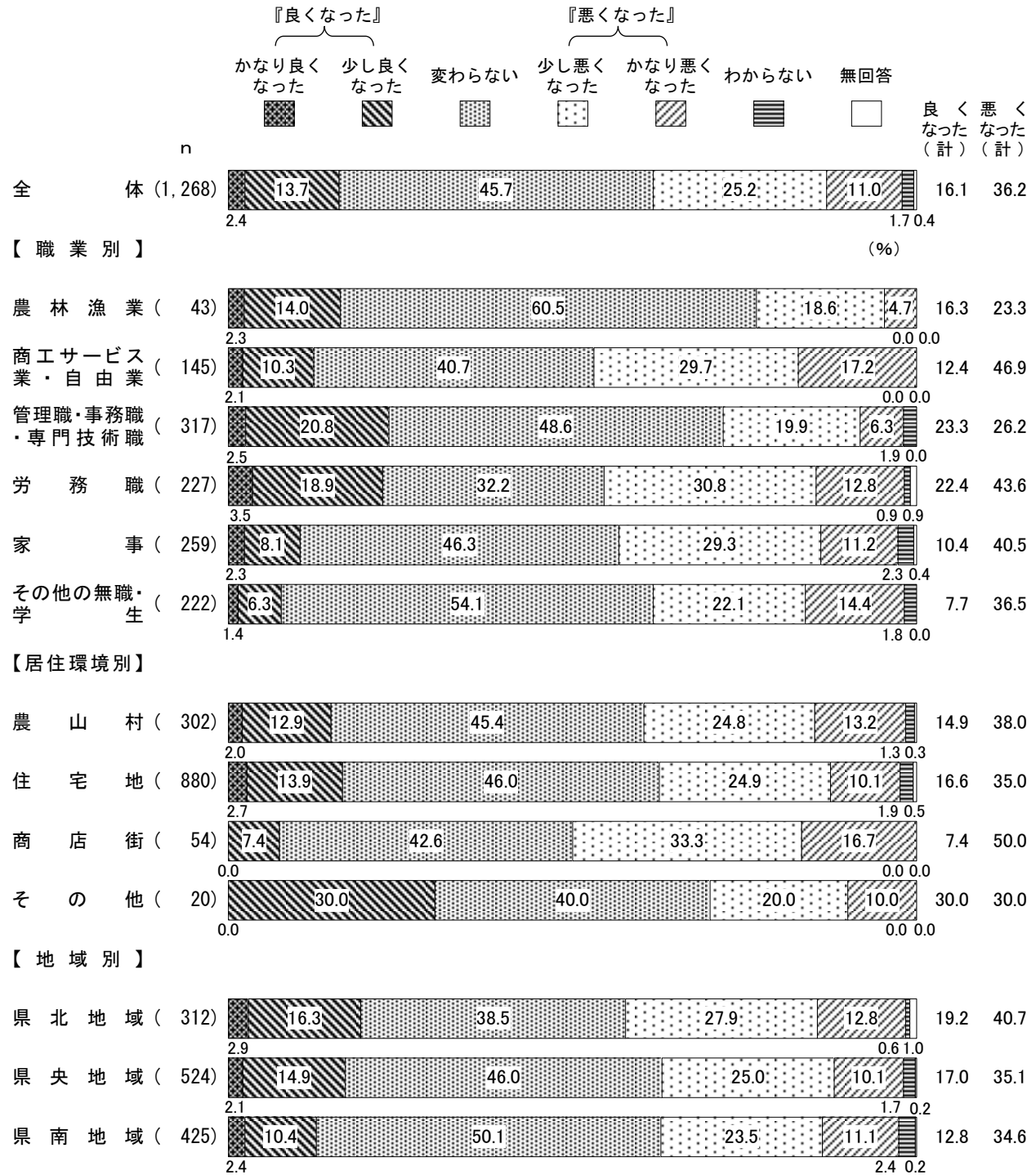
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『悪くなった』では〈女性〉(37.3%)が〈男性〉(35.1%)より2.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性20歳代〉が37.5%、〈男性30歳代〉が33.4%、〈女性20歳代〉が31.1%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性60~64歳〉が52.9%、〈男性65~69歳〉が52.1%、〈女性65~69歳〉が47.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、『良くなった』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が23.3%、〈労務職〉が22.4%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈商工サービス業・自由業〉が46.9%と高くなっている。

居住環境別で見ると、『悪くなった』では〈商店街〉が50.0%と高くなっている。

地域別で見ると、『良くなった』では〈県北地域〉が19.2%と高くなっている。一方、『悪くなった』でも〈県北地域〉が40.7%と高くなっている。

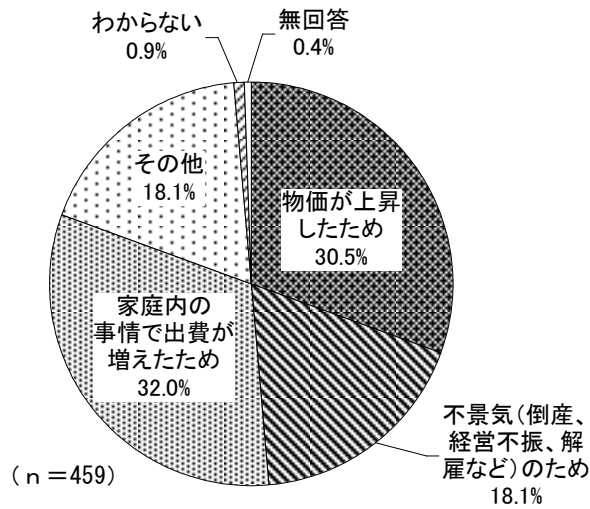
(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

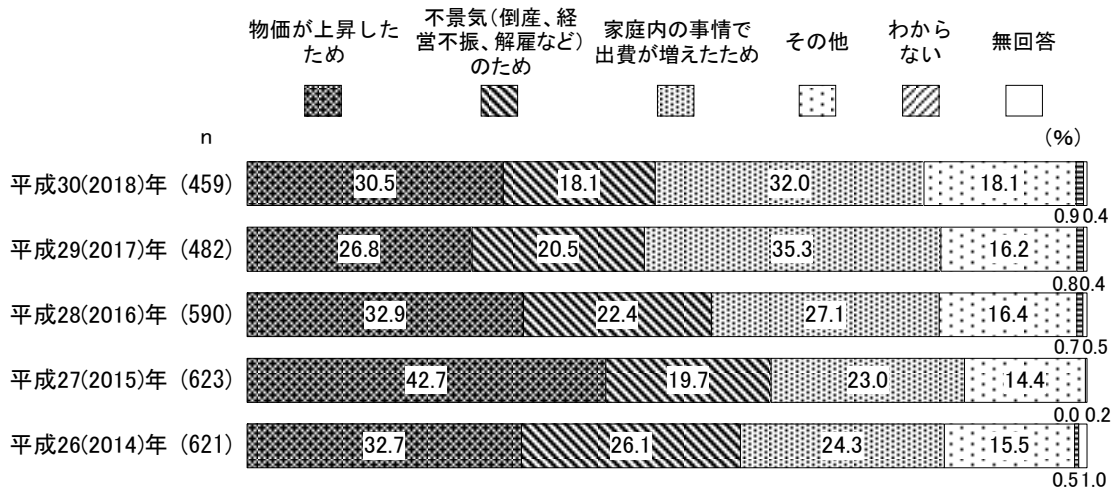
問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。

[n=459]

1 物価が上昇したため	30.5%	4 その他	18.1%
2 不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため	18.1	5 わからない	0.9
3 家庭内の事情で出費が増えたため	32.0	(無回答)	0.4

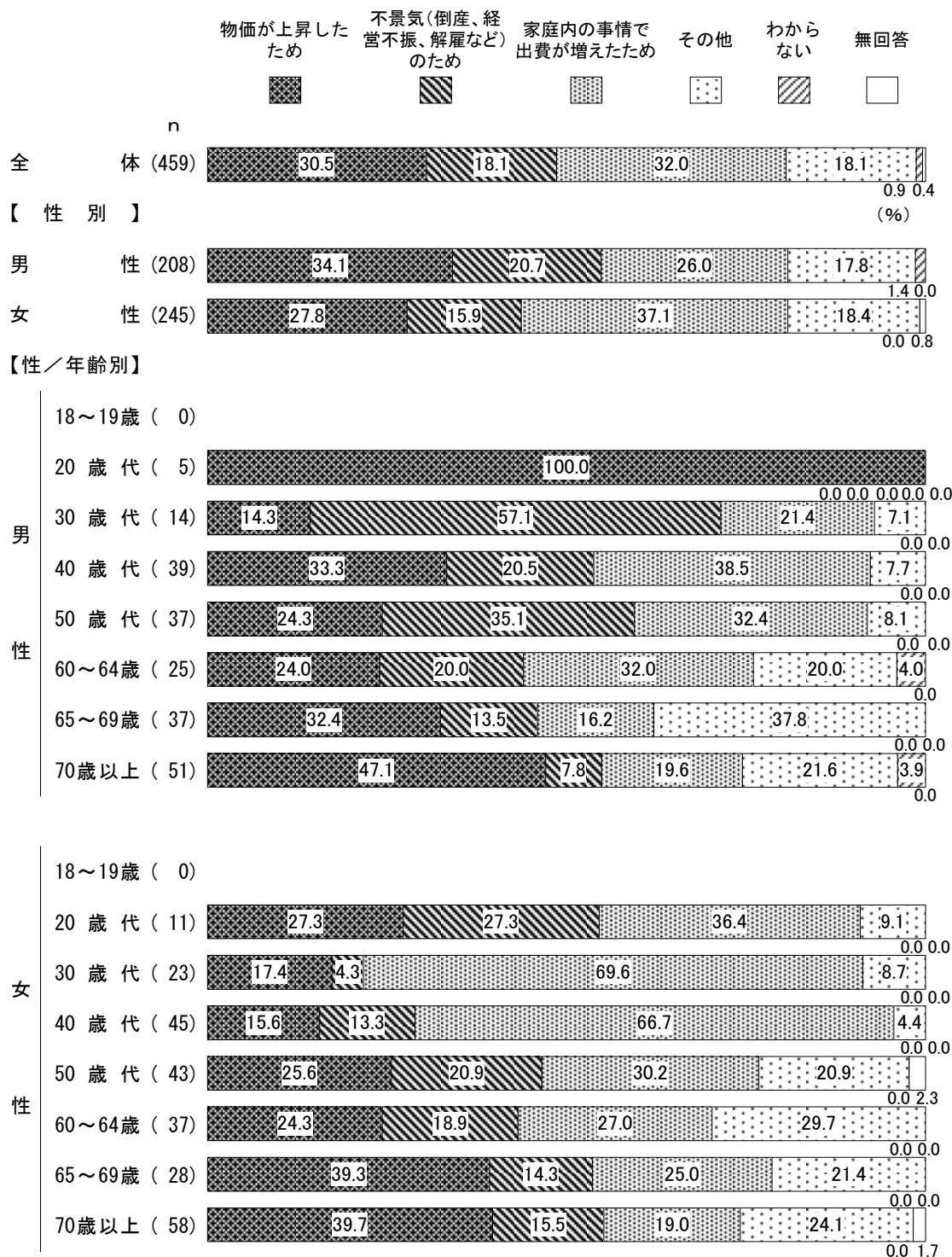


全体でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」(32.0%)が3割を超えて最も高く、次いで「物価が上昇したため」(30.5%)、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(18.1%)の順となっている。



過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が平成29(2017)年より3.7ポイント増加している。一方、「家庭内の事情で出費が増えたため」が平成29(2017)年より3.3ポイント減少している。

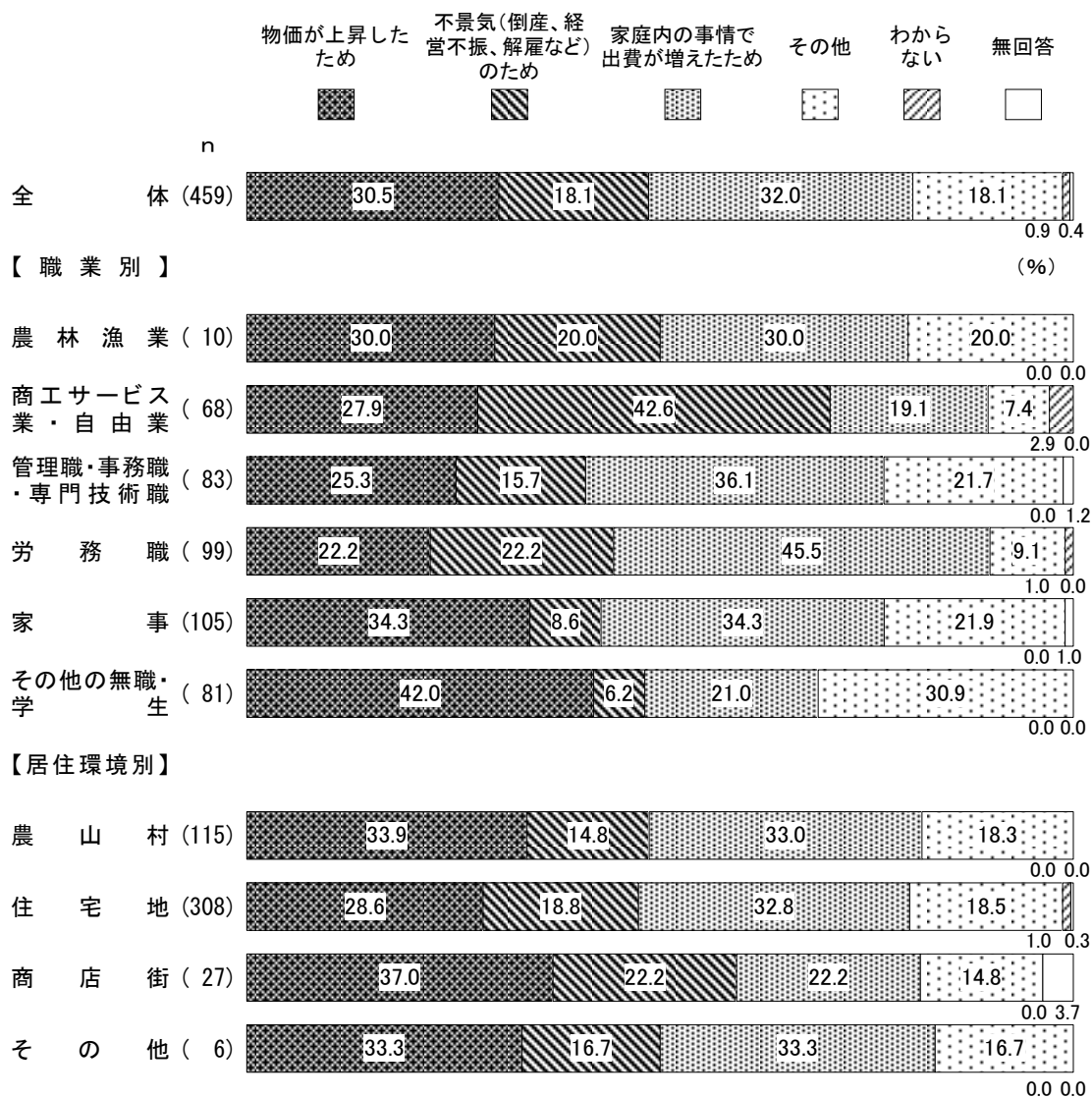
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉(37.1%)が〈男性〉(26.0%)より11.1ポイント高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性〉(34.1%)が〈女性〉(27.8%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性30歳代〉が69.6%、〈女性40歳代〉が66.7%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉が47.1%、〈女性70歳以上〉が39.7%、〈女性65~69歳〉が39.3%と高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性30歳代〉が57.1%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]



職業別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈労務職〉が45.5%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈その他の無職・学生〉が42.0%と高くなっている。「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈商工サービス業・自由業〉が42.6%と高くなっている。

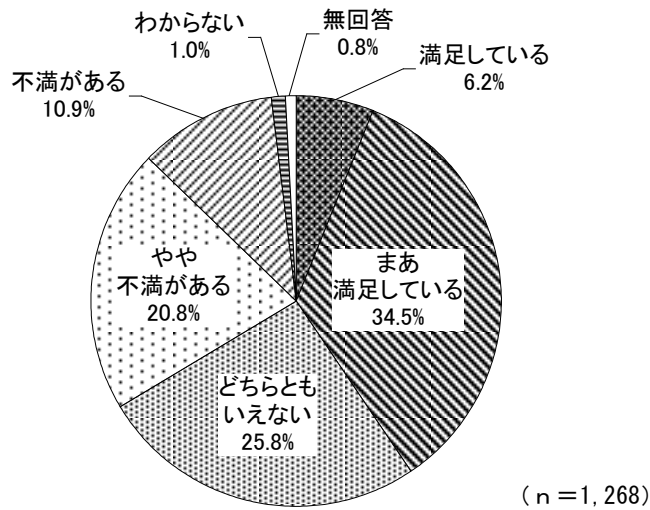
居住環境別でみると、「物価が上昇したため」では〈商店街〉が37.0%と高くなっている。

(2) 暮らしの満足度

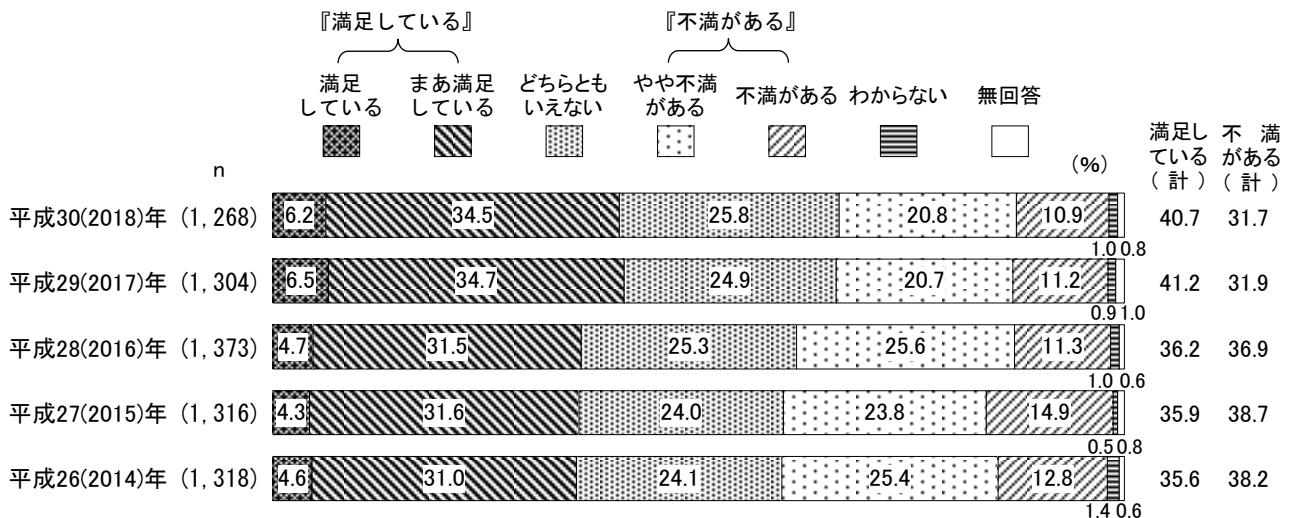
問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,268]

1 満足している	6.2%	4 やや不満がある	20.8%
2 まあ満足している	34.5%	5 不満がある	10.9%
3 どちらともいえない	25.8%	6 わからない	1.0%
		(無回答)	0.8%

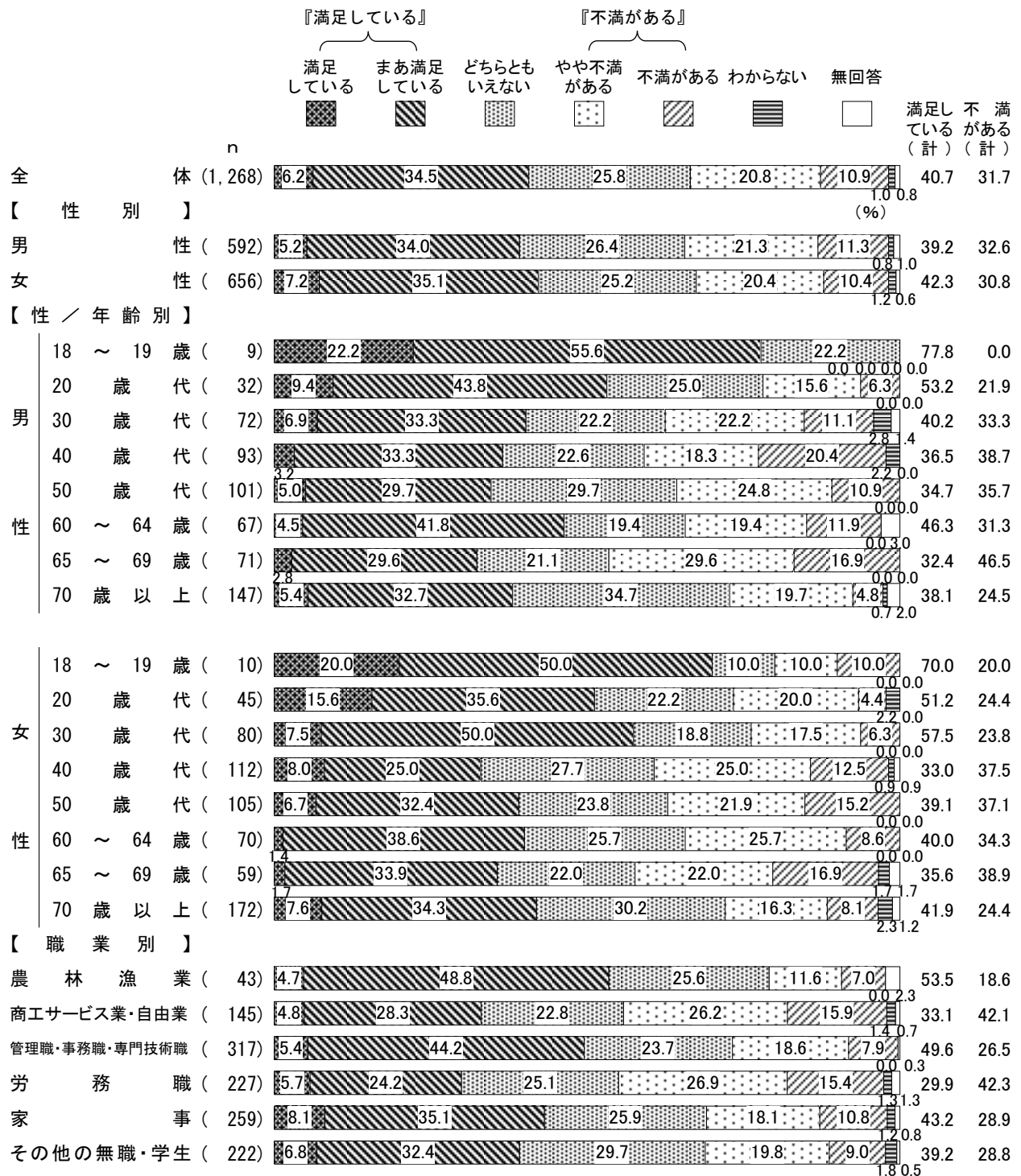


全体でみると、「満足している」(6.2%)と「まあ満足している」(34.5%)の2つを合わせた『満足している』(40.7%)はほぼ4割となっている。一方、「やや不満がある」(20.8%)と「不満がある」(10.9%)の2つを合わせた『不満がある』(31.7%)は3割を超えている。また、「どちらともいえない」(25.8%)は2割半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、平成29(2017)年とほぼ同じ傾向になっているが、平成28(2016)年と比較すると、『満足している』が4.5ポイント増加し、『不満がある』が5.2ポイント減少している。

【性別・性／年齢別・職業別】

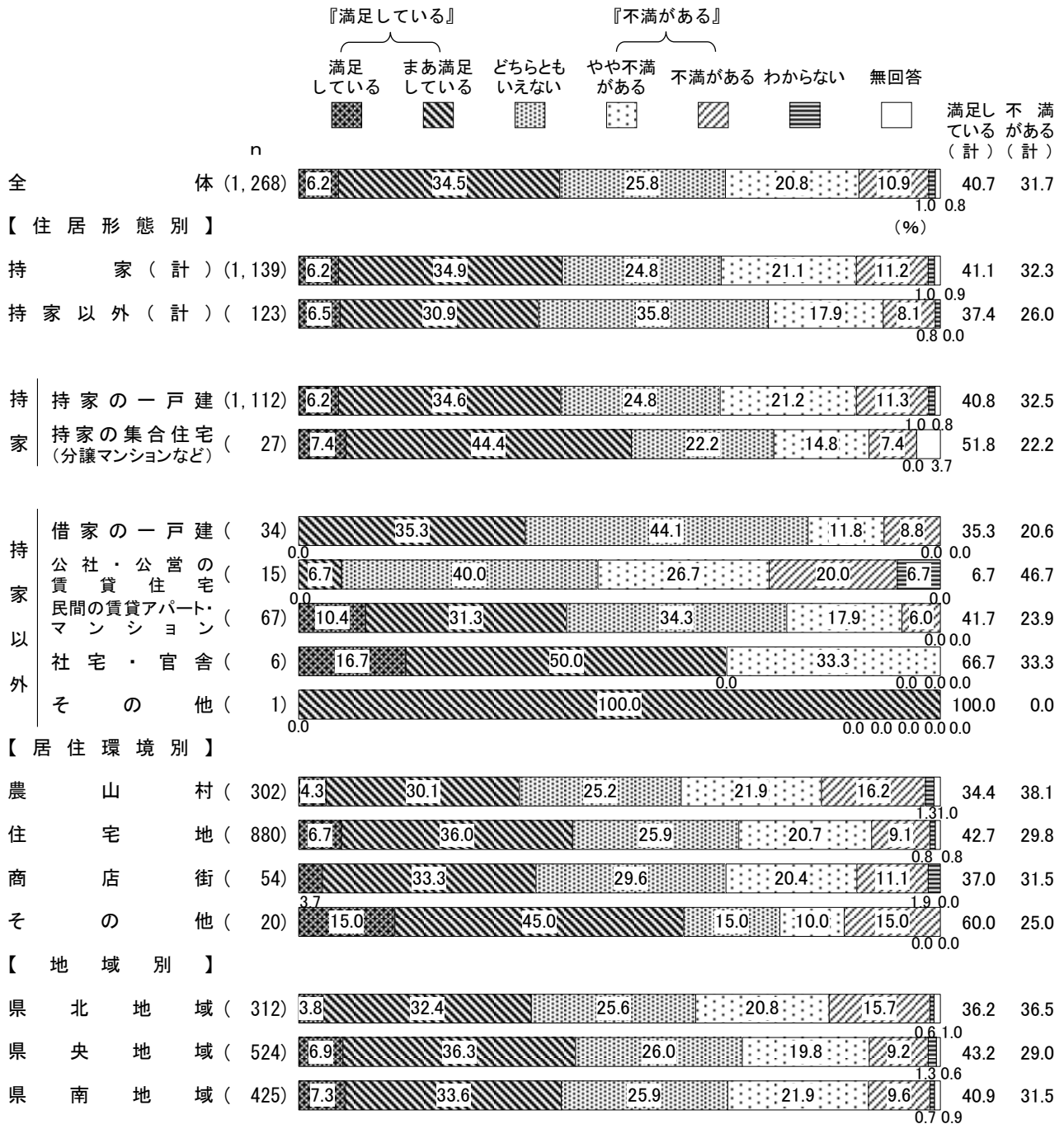


性別でみると、『満足している』では〈女性〉(42.3%)が〈男性〉(39.2%)より3.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『満足している』では〈女性30歳代〉が57.5%、〈男性20歳代〉が53.2%、〈女性20歳代〉が51.2%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性65～69歳〉が46.5%と高くなっている。

職業別でみると、『満足している』では〈農林漁業〉が53.5%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が49.6%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈労務職〉が42.3%、〈商工サービス業・自由業〉が42.1%と高くなっている。

〔住居形態別・居住環境別・地域別〕



住居形態別で見ると、『満足している』では〈持家 (計)〉 (41.1%) が〈持家以外 (計)〉 (37.4%) より3.7ポイント高くなっている。

居住環境別で見ると、『満足している』では〈住宅地〉が42.7%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈農山村〉が38.1%と高くなっている。

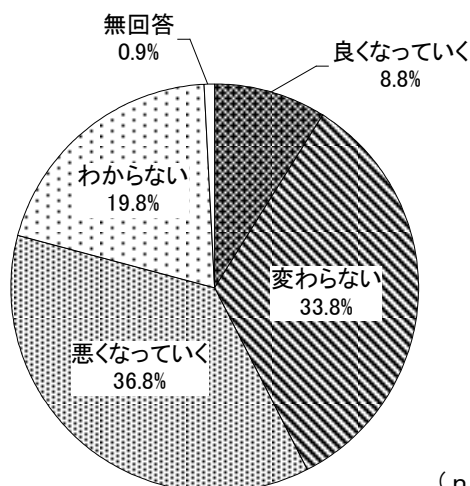
地域別で見ると、『満足している』では〈県央地域〉が43.2%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈県北地域〉が36.5%と高くなっている。

(3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

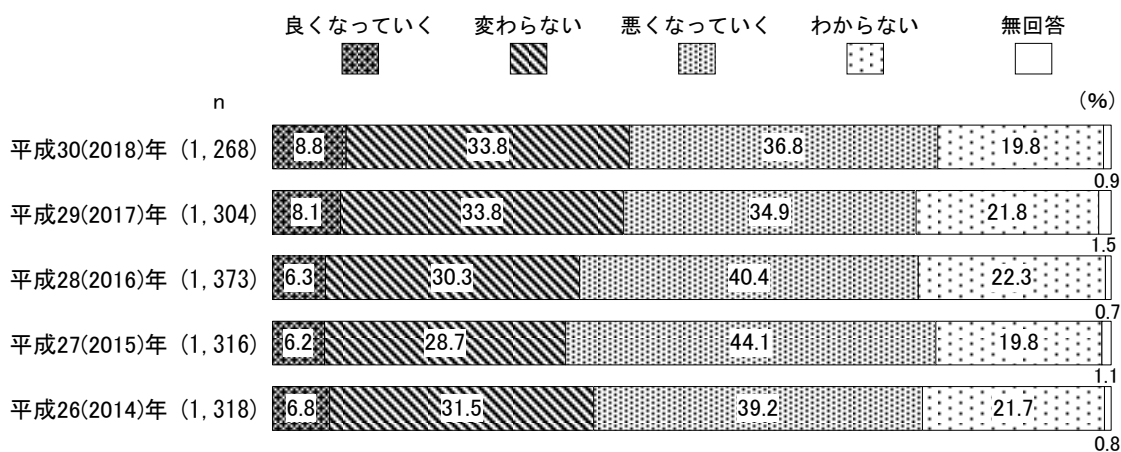
[n=1,268]

1 良くなっていく	8.8%	3 悪くなっていく	36.8%
2 変わらない	33.8	4 わからない	19.8
		(無回答)	0.9



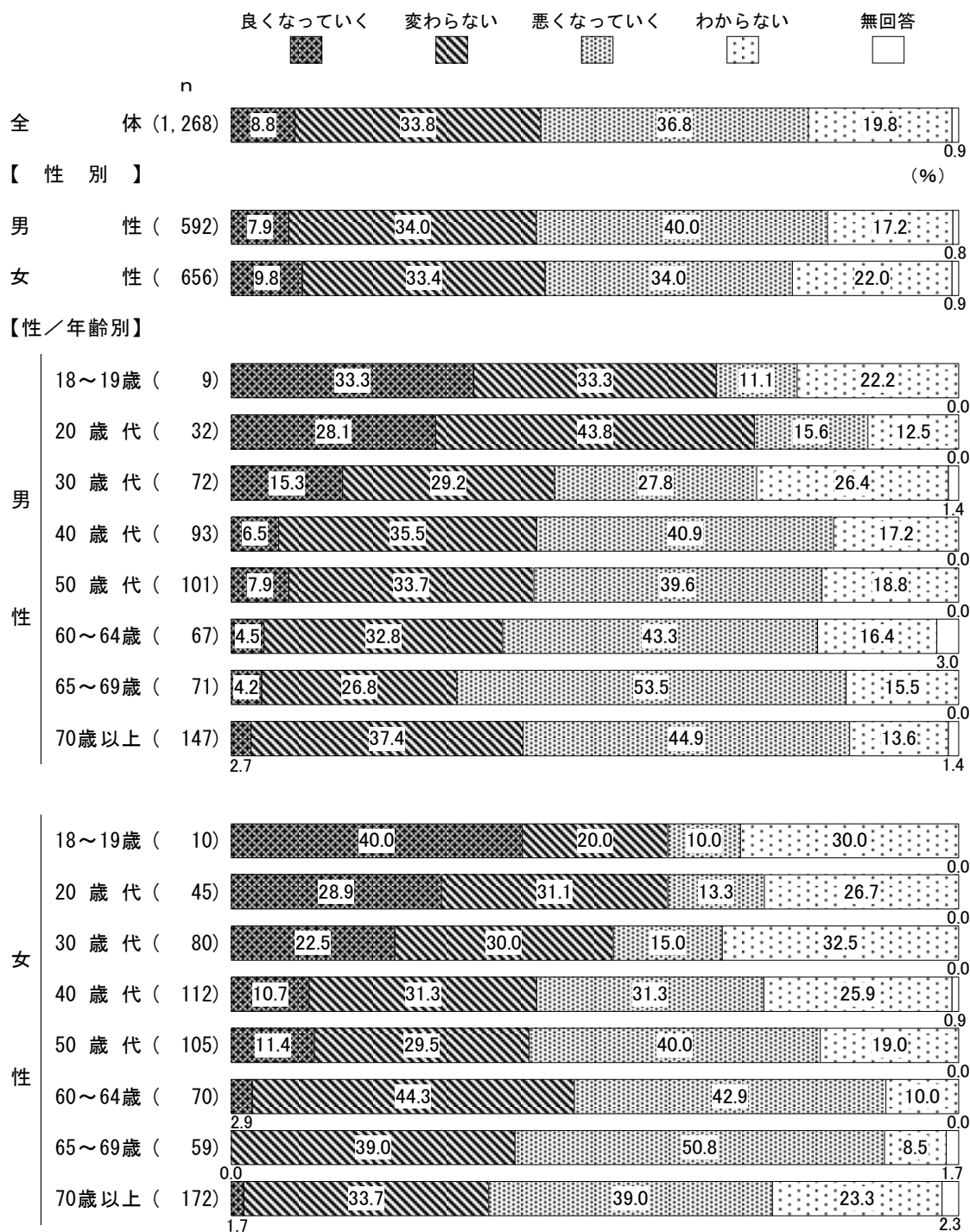
(n=1,268)

全体で見ると、「良くなっていく」(8.8%)は1割近くとなっている。「変わらない」(33.8%)は3割を超えており、「悪くなっていく」(36.8%)は4割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が平成29(2017)年より1.9ポイント増加している。

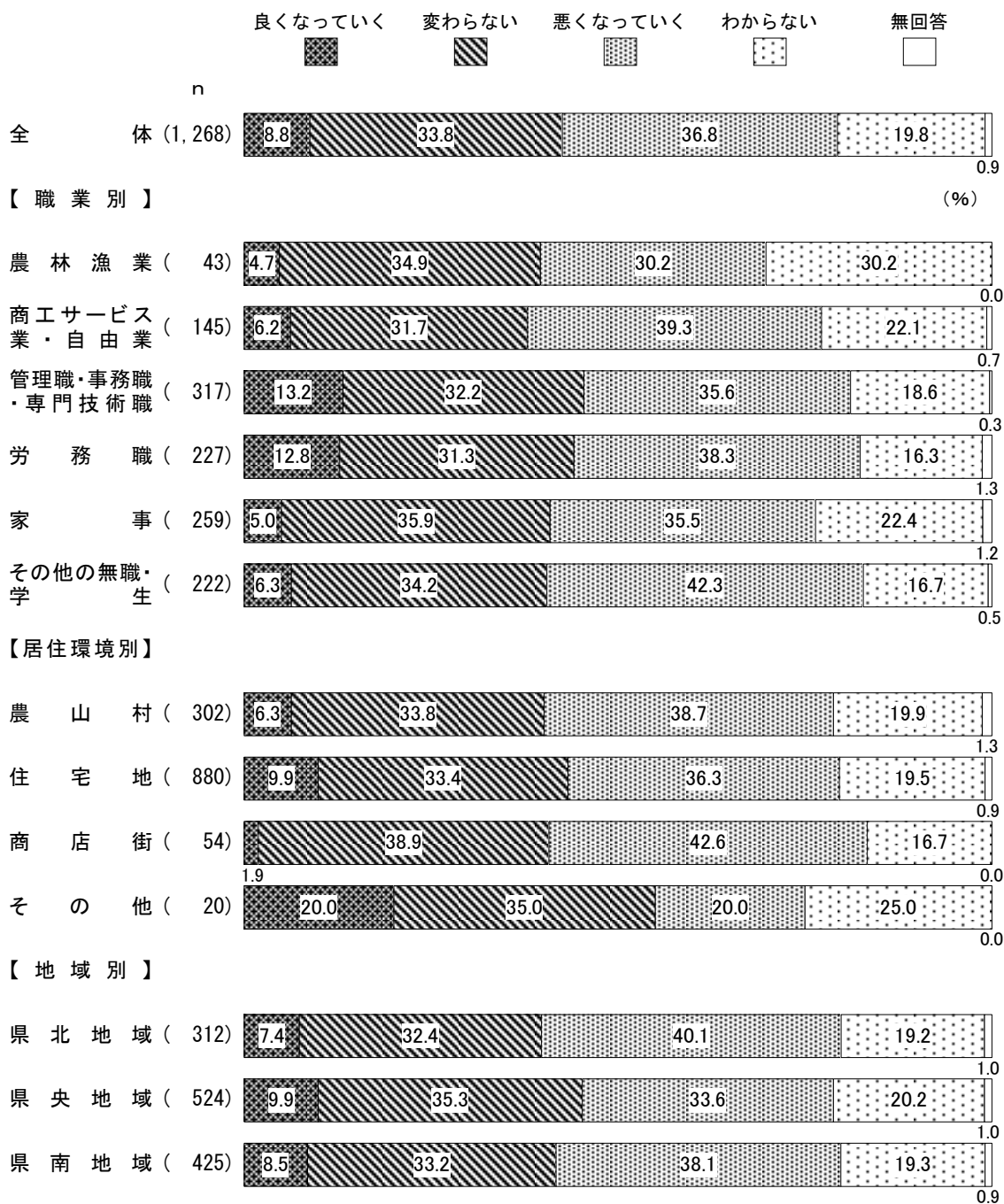
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「悪くなっていく」では〈男性〉(40.0%)が〈女性〉(34.0%)より6.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が28.9%、〈男性20歳代〉が28.1%、〈女性30歳代〉が22.5%と高くなっている。「変わらない」では〈女性60～64歳〉が44.3%、〈男性20歳代〉が43.8%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性65～69歳〉が53.5%、〈女性65～69歳〉が50.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、「良くなっていく」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が13.2%、〈労務職〉が12.8%と高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈その他の無職・学生〉が42.3%と高くなっている。

居住環境別で見ると、「悪くなっていく」では〈商店街〉が42.6%と高くなっている。

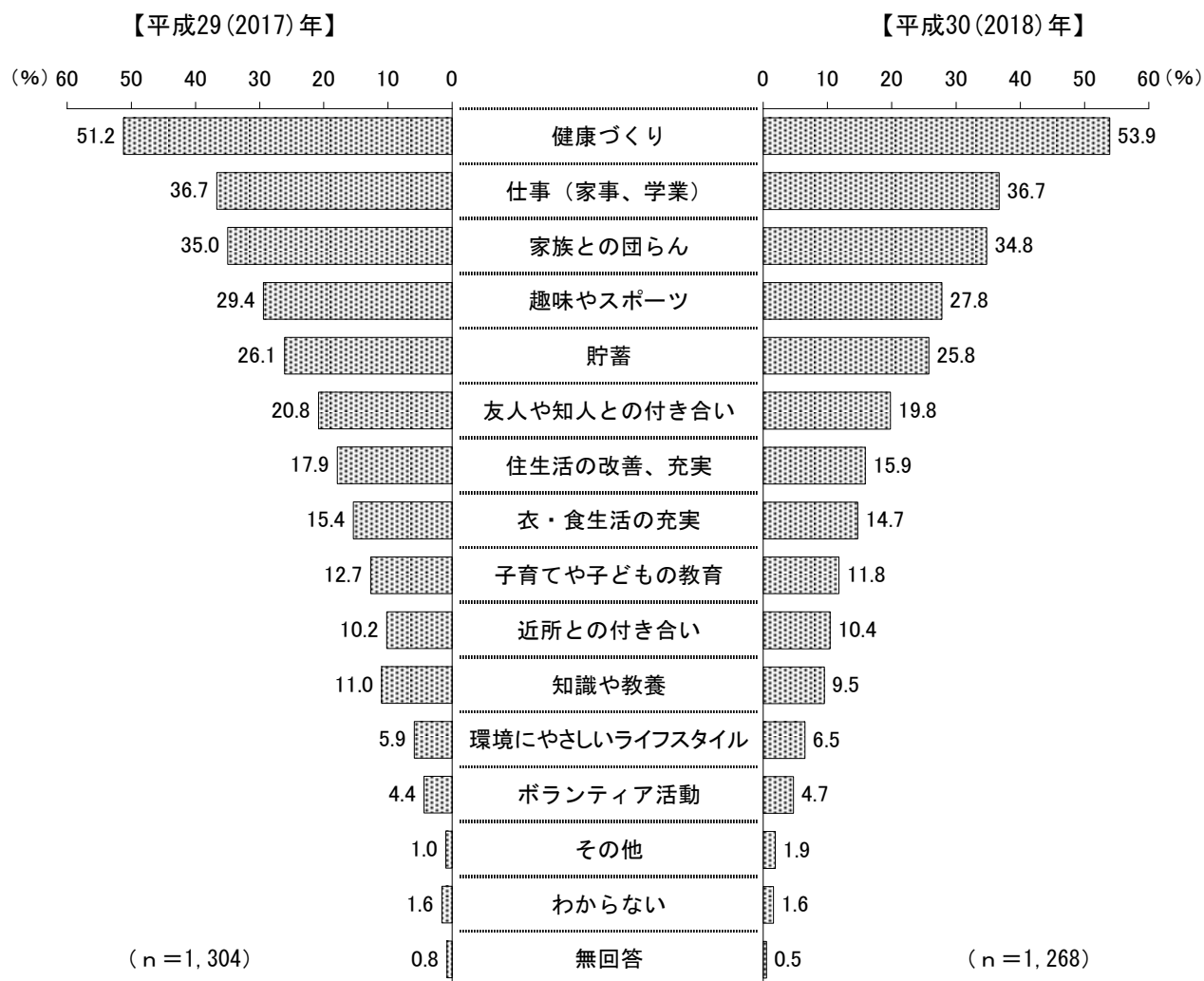
地域別で見ると、「悪くなっていく」では〈県北地域〉が40.1%と高くなっている。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

[n=1,268]

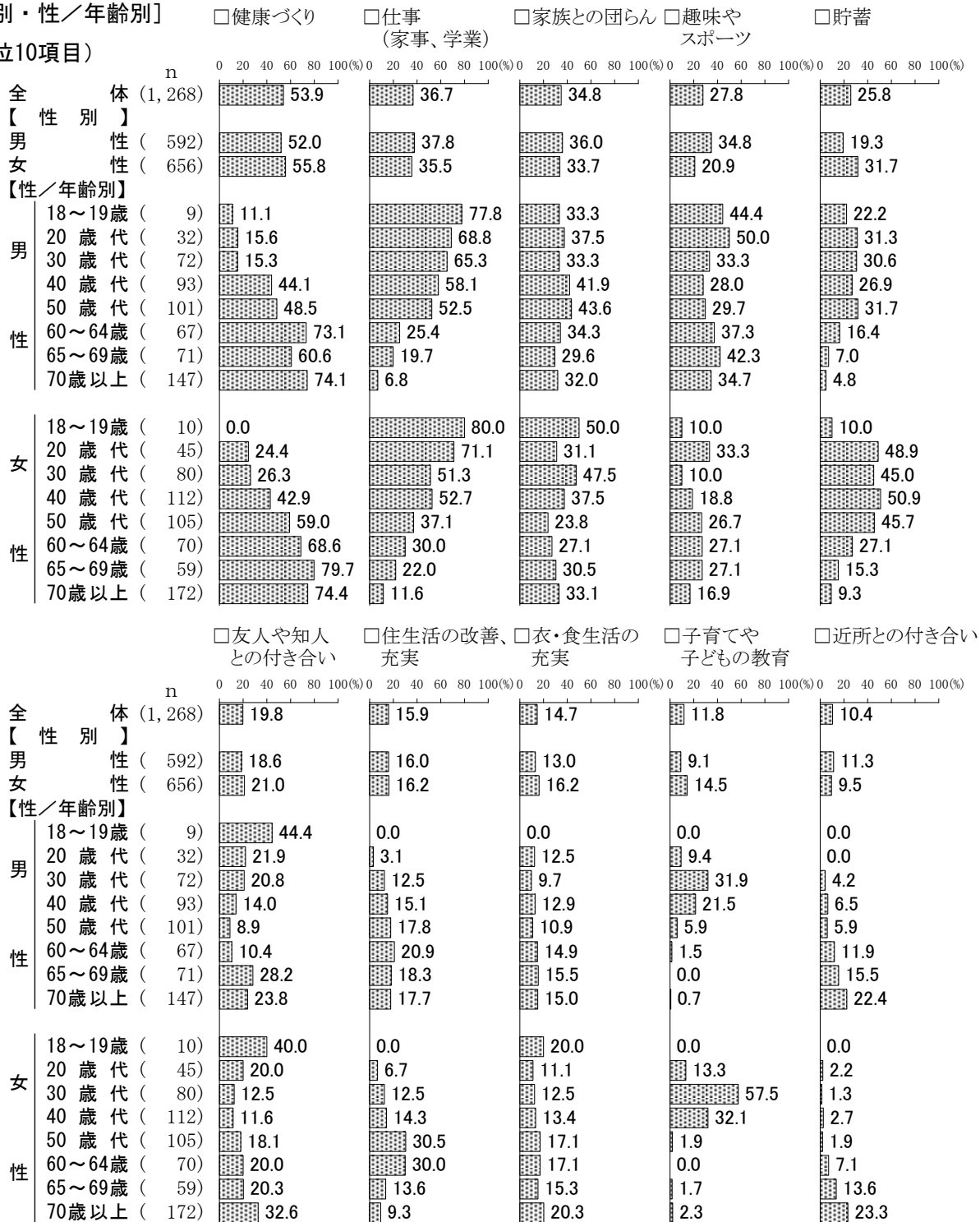
1	仕事(家事、学業)	36.7%	9	家族との団らん	34.8%
2	知識や教養	9.5	10	近所との付き合い	10.4
3	貯蓄	25.8	11	友人や知人との付き合い	19.8
4	趣味やスポーツ	27.8	12	子育てや子どもの教育	11.8
5	ボランティア活動	4.7	13	健康づくり	53.9
6	衣・食生活の充実	14.7	14	その他	1.9
7	住生活の改善、充実	15.9	15	わからない	1.6
8	環境にやさしいライフスタイル	6.5		(無回答)	0.5



全体でみると、「健康づくり」(53.9%)が5割を超えて最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(36.7%)、「家族との団らん」(34.8%)、「趣味やスポーツ」(27.8%)、「貯蓄」(25.8%)の順となっている。

平成29(2017)年の調査結果と比較すると、「健康づくり」が2.7ポイント増加している。一方、「住生活の改善、充実」が2.0ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]
(上位10項目)

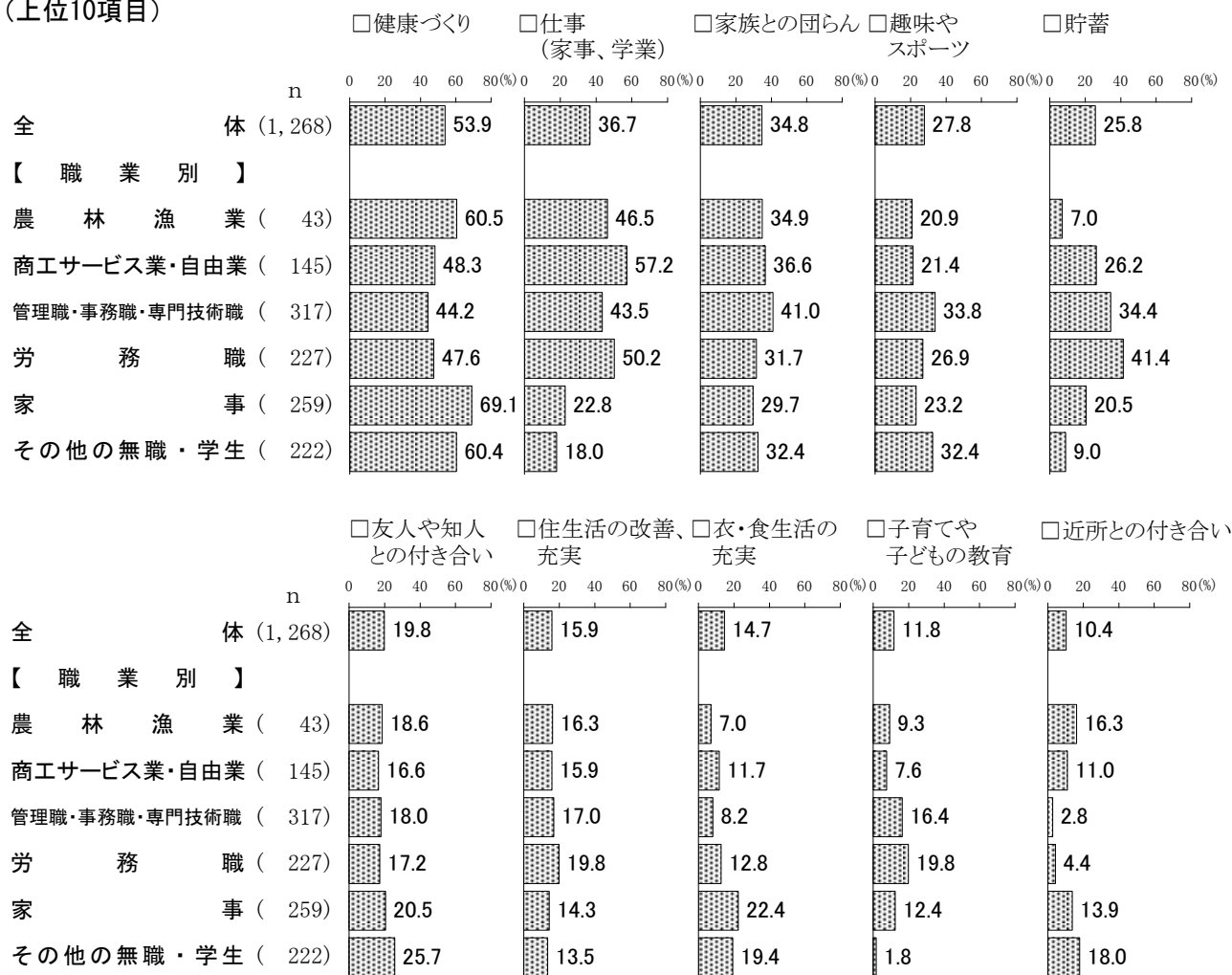


性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(34.8%)が〈女性〉(20.9%)より13.9ポイント高くなっている。「貯蓄」では〈女性〉(31.7%)が〈男性〉(19.3%)より12.4ポイント高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性〉(14.5%)が〈男性〉(9.1%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性65~69歳〉が79.7%、〈女性70歳以上〉が74.4%、〈男性70歳以上〉が74.1%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈女性20歳代〉が71.1%、〈男性20歳代〉が68.8%、〈男性30歳代〉が65.3%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性40歳代〉が50.9%、〈女性20歳代〉が48.9%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が57.5%、〈男性30歳代〉が31.9%と高くなっている。

[職業別]

(上位10項目)



職業別で見ると、「健康づくり」では〈家事〉が69.1%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈商工サービス業・自由業〉が57.2%、〈労務職〉が50.2%と高くなっている。「貯蓄」では〈労務職〉が41.1%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が34.4%と高くなっている。